



## 2018年度トレーナー検定試験 試験結果講評

2019年3月5日

特定非営利活動法人 小学校英語指導者認定協議会  
トレーナー認定委員発行

### 実技試験

提示する5つの言語材料は新教材 Let's Try! 1, 2/ We Can! 1, 2 で扱う内容です。実施要領にある参考文献を確認し、言語材料のねらいをきちんと理解しておいてください。

全体的に英語力の高い方が多く、わかりやすい Teacher talk を使い、英語での授業をスムーズに進めていました。ただし、児童に理解できるペースで、語句や表現を選び、理解可能なインプットとしての Teacher talk の意識をもっと強く持っていたいただきたいと感じました。

模擬授業では外国語活動の「導入」のねらいを的確に捉えていない内容が見られ、そのことをコメント・アドバイスで指摘できなかった受験生が多かったと思います。漫然とほめるのではなく、改善につながる具体的なコメント・アドバイスができる力がトレーナーには求められます。「導入」の5分というのは、授業の最初の5分という意味ではありません。めあてを達成させるための「本時」の活動において、最初に言語材料やテーマを導入するための活動を指します。実施要領をよく読み、模擬授業のねらいを確認してください。

また、トレーナーは教育委員会や学校長などと話すことも想定されていますので、受験時も自覚ある服装が望ましく思います。

### 筆記試験

#### **領域1**

トレーナーは豊富な実践経験に基づいて、英語教育の理論と知見を現場に広めていく役割を担います。第二言語習得 (SLA) の知識を持つことで自分の実践に自信が持て、指導者としてのコメントにも説得力が出ます。

用語の説明については第二言語習得のキーワードの中で現時点の小学校英語で課題となっているものへのアンテナを張り、現場での適用を視野に入れた内容説明ができるような準備を進めてください。

論述問題については第二言語習得の基本を踏まえ、実際の児童の学びに照らし、どのように現場での実践に結び付けていくかという観点で論じていただく準備が必要です。知識の不足も目に付きましたが、基本的な知識をどう活用するかという視点を持ってトレーナー試験の準備を進めていただきたいと思います。

## 領域 2

現在公立小学校は、新しい学習指導要領の移行期の真っ只中にいます。これまでに公けになった文部科学省の方針に従ってさまざまな試みを行うと同時に、いまだに明らかになっていない事柄（例えば評価のあり方など）について、その行方に注目しながら懸命にがんばっているところです。トレーナーは、教育委員会や校長会などで話すことも小学校に出向いて現場の先生方に直接指導することもあります。そうした実際の学校現場で責務を果たそうとするなら、領域2で問われていることについて、型通りにしかわかっていないレベルでは、トレーナーとしては不十分だと言わざるを得ません。

例えば、キーワードになっている用語について「説明しなさい」という問いに対して、そのキーワードを構成している要素を列挙するだけの答えが散見されました。これでは、「説明」になっていません。そのキーワードが何を示しているかだけではなく、どういうねらいをもって導入されたかまできちんと答えに含まれていないと十分ではありません。また、現在の小学校の外国語活動・外国語が目指しているものを解答するのではなく、受験者の体験や考えを書いただけのように思われる解答も多かったです。小学校の現場に対する知識や理解が十分でない、ただの「英語屋」であってははいけません。

トレーナーになれるかどうかの条件の一つに、小学校の先生方に寄り添えるかどうかということがあります。そのためにはまず『学習指導要領』や『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』など必読書や参考文献を丁寧に読んで、現場が現在置かれた状況や諸問題についてより一層の深い理解をしていただきたいと思います。

## 領域 3

第三領域では、英語教授法に関する知識や、英語の文献を「読み取る力」と「まとめる力」が問われます。まず内容の理解ですが、今回は出題の意図と解答との不一致が目立ちました。文献の内容を十分に理解するには、英語の読解力とそれを助ける背景知識が必要です。指定されたテキストを良く読んで、早期英語教育の基本的な用語を押さえるなど、具体的な方策を用いて、必要な知識を身につけましょう。

次に英文の要約ですが、今回はテキストに書かれている表現をそのまま多用するケースや、解答者の解釈が入るケースなどが見られました。要点を押さえながら、読み取った内容をまとめ、自分の言葉に置き換える際に主観が入らないよう、注意してください。文法は、意味の理解を妨げるグローバルエラーがあると減点対象になります。基本的な文法の知識はあっても、それが使えるかどうか当然のことながら問われますので、英語そのものの運用能力を磨いでください。また、どの理論や指導法も、外国語環境ではどうか、小学校の教室環境でどのように応用できるかを常に考えることが大事です。早期英語教育の幅広い知識を身につけて活躍できるトレーナーを、是非目指してください。

以上